

第 5 回奈良 ESD 連続セミナー 概要報告

- ◇開催日時 平成 29 年 8 月 22 日(金)
- ◇会場 次世代教員養成センター2 号館多目的ホール
- ◇参加者 池見・大西・彌弥・圓山(飛鳥小)、三木・山方(都跡小)、河野(附属小)、倉家(伏見南小)
蔵前(真美ヶ丘第一小)、島(郡山西小)、中澤哲(平群北小)、新宮(平城小)、篠原(光明中)
中村(済美南小)、石田・松田(済美小)、
中澤敦(きんき環境館)、樫原(日本 ESD 学会事務局)、北村(御所市教育委員)
谷垣・口脇・春日・森本・栗谷(奈良教育大学) 計 24 名

◇内容

①SDGs の目標の解説

目標 10.11.12(蔵前)

目標 10 各国内及び各国間の不平等を是正する ⇒ **政治的・経済的平等**

- ・ 2030 年までに、各国の下位 40%の所得成長率を国内平均を上回る数値へ
- ・ 差別的な法律、政策及び慣行の撤廃
適切な関連法規、政策、行動の促進 ⇒ 成果の不平等を撤廃
- ・ 税制、賃金、社会保障政策などの政策を導入し、平等の拡大を斬新的に達成
- ・ 後開発途上国、アフリカ諸国、小島嶼開発途上国、内陸開発途上国等のニーズが最も大きい国々への政府開発援助及び直接投資を含む資金の流入促進
- ・ 2030 年までに移住労働者の送金コストを 3%未満に引き下げ、コストが 5%超える送金経路の撤廃

目標 11 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する

⇒ **まちづくり**

- ・ 2030 年までにスラムを改善する
- ・ 2030 年までに脆弱な立場の人や女性、子ども、障害者、高齢者のニーズに配慮し持続可能な輸送システムへのアクセスの提供
- ・ 2030 年までに貧困及び脆弱な立場にある人々の保護に焦点を当てながら、水関連災害による死者や被災者数を削減する。
- ・ 2030 年までに都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する
- ・ 2030 年までにすべての人々に安全で包摂的かつ利用が安易な緑地公共スペースへのアクセスの提供
- ・ 2020 年までにあらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施

目標 12 持続可能な生産消費形態を確保する ⇒ **先進国から開発途上国へ**

- ・ 低炭素型ライフスタイル・社会システムの確立を目指すことを目的に「持続可能な消費と生産に関する 10 年計画枠組み」を辞しする
- ・ 2030 年までに世界全体の一人当たりの食糧の廃棄を半減、生産・サプライチェーンにおける食品ロスの減少
- ・ 2020 年までに製品ライフサイクルを通じて、環境上適正な化学物質や廃棄物の大気、水、土壌へ

の放出の大幅な削減

- ・大企業や多国籍企業に対して、持続可能性関する定期的な報告
- ・開発途上国に対し、持続可能な消費・生産形態促進のための支援

目標 13.14.15(池見幸恵)

目標 13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

- ・全ての国で気候関連災害や自然災害に耐えうる力や気候や自然に適応して生きていく力を強める
- ・地球温暖化による気候変動の対策をそれぞれの国で考え実施する
- ・気候変動が起き続けないように、また、影響が少なくなるように、教育や啓発をし、制度がしっかり働くようにする



効果的な計画を立て、管理能力の向上を図る

目標 14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

- ・海洋汚染の大幅削減
- ・2020 年までに海洋及び沿岸の生態系の回復のための取り組みを行う
- ・海洋酸性化の影響を最小化
- ・漁獲を効果的に抑制、化学に基づいた管理計画の実施
- ・2020 年までに沿岸域及び海域の 10%の保全
- ・2020 年までに過剰漁獲や違法・無報告・無規制漁業につながる漁業補助金の禁止撤廃
- ・海洋資源を持続的に利用することで、経済的便益を増大させる



技術や能力の向上で持続可能な利用を

目標 15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

- ・陸域生態系と内陸淡水生態系の保全・回復・持続可能な利用の確保
- ・森林現象の阻止と再植林
- ・砂漠化・干ばつ及び洪水の影響を受けている土地の回復
- ・生物多様性を含む山地生態系の保全を確実にを行う
- ・絶滅危惧種の保護
- ・遺伝資源からの利益を平等に配分すると共に、遺伝資源の適切なアクセスを推進
- ・保護対象にある動物の密漁・違法取引の撲滅・野生生物製品の需要と供給に対処
- ・外来種の侵入防止のため、優先種の駆除根絶
- ・生態系と生物多様性の価値を貧困削減のための戦略や会計に取り込む



資金の用意



②ESD と国語教育 石田先生

- ・学級経営のコツはコミュニケーションである

そのために

複数人(2人から)で例題に沿って、①無視されながら話す ②真剣に聞いてもらいながら話す という場面を作り、話すのが楽しくなるのを体験させる。

- ・話の聞き方では

あ	相手を見て
い	一生懸命
う	うなずきながら
え	笑顔で
お	終わりまで しっかり聞く

と、教われました。

- ・教室の話は、共通の話題で

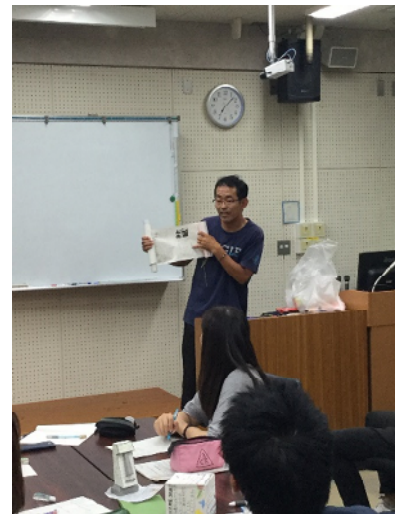
お店は にぎやかで、活気にあふれているように見えますが、グループに分かれた教室に例えると、各席で話題が違い騒がしいだけになります。

- ・育てたい子どもを明確にする(書けるようにする)

私は国語が嫌いでした。だから 子どもにどうすれば好きになるのか(書くことが) を考えてノートを使わず、ワークシートを使っています。しかも、書き上げて組み立てるとモアイ像や巻物、花になったりします。子どもたちは自分の考えの深まりや変化などをノートをめくることなく、一枚の紙の中で知る(確認する)ことができます。



モアイ像 各面に意見が書いてあります



巻物

書いていくうちにどんどん長くなります。でも考えの変化は折ることで比較できます。

次回は 9月29日(金) 19時から 次世代教員養成センター2号館多目的ホール
中澤先生からの課題提供になります。